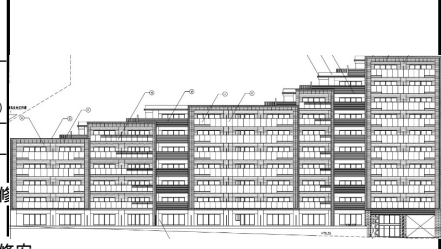


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市藤白台5丁目計画 新築	階数	地上10F、地下1F
建設地	大阪府吹田市藤白台	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	217人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2024年2月1日
敷地面積	4,577 m ²	作成者	株式会社 IAO 竹田設計 矢川修宏
建築面積	1,454 m ²	確認日	2024年2月1日
延床面積	7,745 m ²	確認者	株式会社 IAO 竹田設計 矢川修宏



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レダークチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.7

音環境	3.0
温熱環境	3.8
光・視環境	3.8
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性	3.6
耐用性	3.3
対応性	2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

水資源	3.4
非再生材料の	3.5
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化	3.7
地域環境	2.9
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
断熱性能を高め、採光や換気に十分な大きさの窓を設置することにより、室内環境の向上に配慮している。		特に無し
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
F★★★★の建材を使用し、空気質汚染を回避する対策を取っている。	耐用年数の高い配管を採用している。	植栽により、敷地内の緑化に努めている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱性能を高めるとともに、設備システムの高効率化に努めている。	リサイクル資材やノンフロン断熱材を使用し、資源の保護に努めている。	ガイドラインに沿い、光害対策に取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)吹田市藤白台5丁目計画 新築工事 3工区 B-2敷地					
	建設地	大阪府吹田市藤白台					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					4	
④	エネルギー削減					4	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告	対象外
--------------------	------------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.7	4
② みどり・ヒートアイランド対策			3
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.6	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		